

# 五、時局争闘報告

## 一、戦線統一運動

本同盟の結成それ自體が戦線統一の産物であり我等は又より以上の階級戦線の統一を最も重要な使命の一つとしてかけてゐる。本報告年度に於てこの方面に對して報告すべきは無産政黨合同に對する態度と組合の統一運動との二つである。我が同盟は「階級的政治勢力の擴大を期す」との綱領の立場から昭和五年七月二十日の三無産政黨合同（日本大衆黨、全國民衆黨、無産政黨統一全國協議會）及び昭和六年七月五日の三黨合同（全國大衆黨、農工黨及び社會民衆黨合同實現同盟の合同による全國労働大衆黨の結成）に對しては夫々我が全國労働として積極的にその實現のために努力した。

次に労働組合の戦線統一に對しては、(イ)部分的には單獨の地方組合を合流せしめて同盟の組織擴大をはかり(ロ)全體的運動としては全國労働組合會議提唱と日本労働俱樂部への参加の二項である。(イ)の項は一面本同盟の組織擴大であつて特に論ずる必要はない。(ロ)の中日本労働俱樂部への参加は別項特殊報告中に詳報されてゐるから省略。こゝでは全國労働組合會議結成提唱並にその結果の概要を報告することとする。

我が同盟の創立以後、労働争闘の激發、失業問題の起スレ

下の深刻化、労働組合法問題の政治的意義の重大化等の傾向は日一日と顯著となりつゝあつた。これに對して、「失業反對」並に「自主的労働組合法獲得」の問題を中心に全國の左右を含む労働組合會議を結成すべしとの意見が一般に高まり來つた。全國労働組合會議の提唱はかゝる一般的情勢の産物であると共に、一面我が同盟の労働組合戦線統一方針の發展具體化でもあることは勿論である。かくて我々は昭和六年一月十四日の常任執行委員會に於てその提唱の具體方針を決定し、舊全國大衆黨支持の九團體の共同提唱の形に於て二月二十九日附をもつて全國労働組合會議結成の提唱を示した。

### (提唱狀)

貴組合の絶えざる御援助を感謝致します。

我々最近我が國に於ける労働争闘の情勢を見るに其件數並に参加者數の増及び其の争闘の原因が多く資本家階級の挑駈に基き且つその彈壓の強烈なる別に日本資本主義の統一の強硬なる攻勢に外ならないと存じます。又各組合に提出せられんとする労働組合法案に對する資本家階級の阻止妨害運動とテラヨア的の押合の態度は、結局組合の骨抜き争闘に歸する形勢にあり、加へて一面資本主義の産業合理化を中心にして失業者は日々に激増し我が國労働階級は全く飢饉線上をさまよはせられつゝあります。我々我が國労働組合運動は、單に個々の組合、産業的並に地方的等の協力と發展のみを以てしては、充分其の威力を發揮することは困難であり、進んで全労働階級の統一の階級的協力の上下の組合運動の基礎を築くべきに迫らるゝものと存じます。

此の意味に於て我々は既に相會し、全體的労働組合會議の提唱を全國の各團體に對し、互に御援助の協力を御願する次第であります。何卒貴組合の御賛同と御協力を仰つて僅に有力なる全體的な組合會議の結成を計り庶幾心より御参加を御願致します。

階級統一軍日なき御誓ひの賜ではありませんが、左記の如く第一回創立準備會を開辦致し度存じますので貴組合代表三名御出席下さる御願致します。

昭和六年一月二十九日

日本労働組合總聯合會、東京農工組合、東京従業員組合、横浜市従業員組合、商船同業會、神戸市電業組合、日本警察労働同盟、東京市従業員組合、全國労働組合會議

組合會議創立第一回準備會

日時 昭和六年一月二十七日午後一時より

場所 東京芝公園内協賛會館禮堂

出席者 各組合正式代表三名

議題 全國的労働組合會議創立に關する件

尚御 席の有御手数ながら第一報下さる御願致します。

かくて二月七日その第一回準備會は東京芝協賛會館談話室にて開催され正式に準備會として成立した。出席團體は

總聯合、全國労働、東京市電、東京ガス工、東洋従業員、函濱市電、東京出版、中央一社、神向止會、關井縣労働、東京郊外電業、鎌倉市水道、神戸市電(電文二任)、商船同業(電文二任)。外に隨處して日本海員組合、海員協會、東京交通、東京電氣労働。

の諸組合にて、第一回準備會を正式に成立せしめ、特別委員會を選任して未参加團體の勧誘その他をして閉會。その後特別委員會の決定に従つて主として我が全國労働が右翼諸團體

への勧誘に當り全體的労働組合會議結成のために努力した。その經過と結果は別項労働俱樂部の報告中に明らかである。只我が全國労働としては海員組合を通じて右翼諸團體への働きかけをなしたことは右準備委員會並に特別委員會の意志に基きその決定に従つてなしたものであることは此處に明らかにして置く。

然るに其後右翼諸團體は右組合會議準備會に参加するまでに態度を決定しなかつたとは云へ海員組合長濱田氏の名によつて、戦線統一のための「懇談會」を提唱し來り、我等の働きかけは遂にその形は如何であれ具體的に効果を示したのである。この懇談會々を通じて遂に「日本労働俱樂部」組織案が海員組合側より提議されたので、我等は再び六月三日全労働組合會議第二回準備會を召集してその對策を協議した。この第二回準備會に於ては各團體より労働俱樂部結成のための第三回懇談會に参加することに反對の意見もあつたが會議としては結局準備會の獨自案をもつて出席すべしとの決定を見、去月十一日特別委員會にてその獨自案骨子を決定し第三回懇談會にのぞんだ。その後、労働俱樂部は右懇談會に於て結成され、全國労働はそれへの参加を第五回中央委員會にて決定し準備會に對しても我が同盟の方針を諒解せしめて俱樂部問題は自由とし準備會自身はより強力化して日常争闘に進むべきであるとの方針を決定し第三回準備會にのぞんだ。然るに第三回準備會に於ては各組合共労働俱樂部反對を固執して遂に準備會解散の決議をせんとしたため、全國労働としては右決議には棄権し、殘餘の組合のみにて解散を決定した。